

5. 研究科の概要・特色

看護福祉学研究科は看護福祉学部の完成を機に、1997年4月に修士課程を開設し、さらに最初の修士学位取得者の誕生に合わせて、1999年4月にこの修士課程を博士前期課程とする博士（後期）課程を開設しました。

本研究科は、看護・福祉領域に関して高度な教育・研究を進め、ケアの実行者としての能力習得に加え、健全な保健医療福祉サービスシステムの維持と改革に必要な実践的な問題発見・解決能力と現実的な問題に対応して研究開発能力を発揮できる人材づくりを目指しています。さらに博士後期課程では、博士前期課程（修士課程）における教育・研究の精深さを追求し、少子・高齢社会の看護学、社会福祉学分野の教育・研究者と実践指導者となりうる知的技術者の養成を目指しています。

本研究科博士前期課程（修士課程）および博士後期課程では、2010年度から次の要点を中心にカリキュラムの全面的な見直しを行いました。

1. 高度専門職業人の育成をより一層明確に打ち出すこと。
2. 社会人の修士課程での学びを促進・強化すること。
3. 看護学と臨床福祉学の接点を強固なものにすること。

具体的には、

- ①専攻領域を整理、一部統合したこと。
- ②「ナースプラクティショナー養成コース」の導入に伴い、その教育に必要な科目を配置したこと。
- ③看護学専攻、臨床福祉学専攻の「看護福祉学研究科共通科目」を拡充したこと。

となります。

さらに、2015年度からは、NP養成コースにおいて特定行為研修を行うため、看護学専攻の修士課程カリキュラムを大幅に改正し、コース名称等も改め、CNSとNPの区分を明確にし、2025年度からは保健師養成課程を開設いたしました。

修士課程の各専攻におけるコース、領域、研究分野は、以下の通りです。

